

カブトイワモチキミツバチ

もてきいち さいしゅう
— 茂木伊一氏が採集した新種のミツバチ —

🔍 350万年前の日本列島にミツバチがいた！！

茂木伊一氏が採集された^{かぶといわそう}兜岩層の昆虫化石の中から新種のミツバチが発見されました。
現生種^{げんせいしゅ}のトウヨウミツバチ *Apis cerana* によく似ていますが、翅脈^{しみやく}（翅^{はね}に見られる筋^{すじ}）が異なることと、後脚^{あとあし}の基跗節^{きふせつ}にみられる剛毛列^{こうもうりつ}の特徴から新種として記載されました。

頭部

正面から見ると三角形、
上部から見ると四角形に近い。

胸部

^{ぜんきょう}前胸・^{ちゅうきょう}中胸・^{こうきょう}後胸に分かれ、ほぼ円形。^{ぜんし}前翅は中胸から出ている。

腹部

1～5 節まで確認できる。

前翅の翅脈

^{みやく}脈相（翅脈の様子）は昆虫を分類するときの目印になる。



Apis antejaponica Engel and Tanaka, 2026
Holotype SNM-F-Kb-227



矢印が指す部分は毒針の可能性がある。

この化石が世界的にみて重要なのはなぜか？

ミツバチのなかまはアジアを中心に^{せんしんせい}鮮新世に多様化したと考えられていますが、この時代の化石はこれまでは知られていませんでした。この化石は、2025年に兵庫県の^{ぜんきせんしんせい}前期鮮新世—^{こうきこうしんせい}後期更新世の^{てらぎそう}照来層から記載されたタジマミツバチとともに、ミツバチの進化史の空白を埋める重要な化石で、今後の研究の進展が期待されています。

ミツバチの現生種

世界に9種が知られており、そのうち8種はアジアに分布しています。

日本に分布するミツバチ

- ・セイヨウミツバチ（移入種）^{いにしゅうしゅ}
 - ・ニホンミツバチ^{にほんしゅ}
 - （在来種・トウヨウミツバチの亜種）^{ざいらいしゅ} ^{あしゅ}
- 青森県の下北半島が分布の北限です。^{しもきたはんとう} ^{ほくげん}



セイヨウミツバチ



トウヨウミツバチ